

VIEW

職場を暗くする社員の引き締めにはNOの声を！

不当なボーナスカットは許さない！！

会社は、12月3日以降年末手当の明細書を配布しました。その中で、2名の組合員がボーナスカットされていることが明らかになりました。さらにその内の1名は夏期手当に続いての連続したボーナスカットです。

今回、ボーナスカットされた組合員は、すぐに管理者に理由を聞きにいきましたが、管理者は「総合的判断としか聞いていません」と繰り返すだけでした。理由もはっきりしない恣意的なボーナスカットは絶対に許せません！！カットされた組合員はボーナスカットの撤回と具体的な理由を明らかにすることを求めて「苦情処理申告」を行いました。

会社は、これまで些細なミスを口実にしたり、始めから相手を狙い撃ちにしたようなチェックでボーナスカットを繰り返してきました。

職場では、ミス無くすためと称して社員を「監視」する管理者がウロウロしています。つい先日も、ある管理者がボーナスカットされた社員のチェックにきていました。管理者は、社員が磁気栓検査を行い側引戸の点検カバーを取付けている間に、磁気栓シールワッシャ締結部品のチェックシートを持ってきたかどうか確認するために社員の作業カバンの中を探っていました。その他にも下回り検査時に柱の陰に隠れてチェックをしたり、上回り検査時に配電盤の陰に隠れてチェックする管理者もいます。

会社は、恣意的なボーナスカットを行うことで「社員の引き締め」をしています。一部の社員を悪者にすることで社員間の分断をはかり差別化をはかろうとしています。こんなボーナスカットが許され広がっていけば職場は暗くなるばかりです。社員は萎縮して何も言えなくなります。ものが言える明るい職場をつくるためにみんなで声をあげていきましょう！